



議員活動20周年を迎え、 初心忘れず更なる精進を誓う

志を立てて

高校生最後の冬、突如勃発したソ連によるアフガン侵攻によって、国際政治や安全保障に強烈な関心を持つようになりました。

その一方、日本国内では、総選挙後に一か月以上も国会で首班指名選挙もできずに派閥抗争を繰り返す（世にいう「40日抗争」）内向きの政治を目の当たりにし、「国政政治をリードできる政治家」を志しました。それが、政治への原点です。

そのとき以来、平凡なサラリーマンの家庭に生まれ、地盤もカバンも看板もない私が国政に挑戦するまでの20年間は、まさに試練と苦悩の連続でした。それでも、“良き出会い”に恵まれ、何度となく襲いかかる絶望的な状況乗り越えて、初志を貫徹することができました。

いざ、米国武者修行へ

最初は、生涯の師となる指導教授と出会ったことがきっかけで、国政政治家としての基礎を築くために大学では憲法学を究めようと大学院まで進みました。

そして、その在学中に縁あって石原伸晃代議士の初陣の選挙を手伝い、そのまま公設秘書に就任。その後、本格的に安全保障を学びたいと一念発起して米国留学を決意。そこでも、米海軍出身の良き指導教授に大いに助けいただきました。

貧乏武者修行の末、念願の大学院に合格し首都ワシントンDCへ。2年間死にもの狂いで勉強し、国際関係と国際経済の修士号を取得。米国で最も

権威あるシンクタンクの外交問題評議会に就職することができ、ようやく困窮生活から解放されました。

ワシントンでは、世界中から集まる外交官、研究者、ジャーナリストらに加え米国の政府高官や軍人、有識者らとの交流を通じて得難い人脈を築くことができ、それがその後の政治活動における大きな資産となっています。

国政初挑戦するも、一敗地にまみれる

そして、平成12年（2000年）。ここでも幸運と機縁に恵まれ、東京で衆議院選挙に挑戦するチャンスが巡ってきました。当時野党第一党で政権を窺っていた民主党から熱心にお誘いを受けたこともあり、私自身も日本に「二大政党の切磋琢磨による競争の政治」を確立すべきとの理想に燃えて、家族を米国に残し緊急帰国して補欠選挙に出馬しました。

しかし、結果は惨敗。そこから丸3年、試練の浪人生活に突入したのです。それでも、支援者の皆さんや家族の温かい励ましに支えられ、平成15年11月9日の衆院総選挙で初当選を果たすことができました。

この時の感動は決して忘れることはできません。振り返れば、志を立ててから四半世紀が過ぎ去っていました。それでも、「国際政治をリードする政治家になる」という無謀とも思える目標を片時も忘れることなく、憲法を学び、国際関係論を修め、国際的な人脈を築き、安全保障に関する出版や執筆を重ねながら、“とことんコツコツ”を合言葉に徹底的に選挙区を歩いた結果が報われた瞬間でした。

長島昭久プロフィール

(裏面につづく)

自由民主党・衆議院議員（7期目）。東京30区（府中市・多摩市・稲城市）選挙区支部長。
自民党 政務調査会副会長、国際局長代理、児童の養護と未来を考える議員連盟会長。衆議院 安全保障委員会委員。
日本スケート連盟会長、日本スポーツ協会参与、東京都銃剣道連盟会長、東京都ディスクゴルフ協会名誉会長、東京都ゴルフ連盟相談役。昭和37（1962）年2月17日生まれ。寅年。慶應義塾大学大学院修了。米国ジョーンズ・ホプキンス大学で修士号取得。
これまでに、防衛大臣政務官、首相補佐官、防衛副大臣を歴任。趣味は大相撲・スケート観戦、読書、水彩画。妻と娘2人。